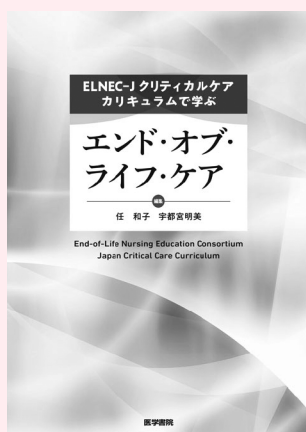


今月の

5冊



ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラムで学ぶ エンド・オブ・ライフ・ケア

任和子、宇都宮明美＝編

発行：医学書院

定価：3520円（本体3200円＋税10%）

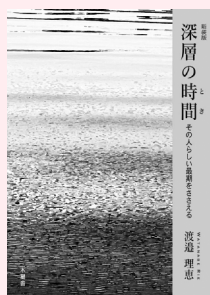
ELNEC-JCC看護師教育プログラムのモジュールに基づく構成で、クリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフ（EOL）ケアを体系的に解説した1冊。基本的な考え方や倫理的視点、状況を踏まえた看護実践、患者・家族への関わり、多職種連携の考え方などについて示す。巻末の付録では4つの事例と設問が提示され、EOLケアについての省察に役立つ。

と き 深層の時間 新装版 その人らしい最期をささえる

渡邊理恵＝著

発行：木犀舎

定価：1320円（本体1200円＋税10%）



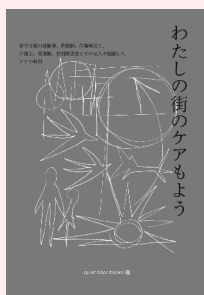
訪問看護の現場には、言葉にならない苦しみや悲しみの前に立ち尽くす時、時計の針が刻む時間とは異なる、“もう一つの時間”が流れているという。本書は訪問看護の現場で著者が体験した在宅の看取りを綴っている。現場でしか知ることのない、今を生きる喜び、悲しみ、苦しみ、救いを伝えてくれる9つの「最期の時間」のものがたり。

わたしの街のケアもよう

quiet bear books＝編

発行：quiet bear books

定価：2310円（2100円＋税10%）



約15年間、母の在宅介護を経験した編集者の倉茂学氏は、医療と介護に携わる多くの人たちと関わりを持った。本書はケアをする人、される人11人のケア経験者が、現在ケア真っただ中の人に向けて、さまざまな角度から語っている。世界が狭く感じられてしまうことがある在宅看護の領域で、広がる可能性を感じさせてくれる。

シリーズ ケアをひらく 刑務所で当事者研究をやってみた 対話実践とチーム処遇が扉をひらく

向谷地生良、村上靖彦＝編著

発行：医学書院

定価：2200円（本体2000円＋税10%）



他者に頼ることを知らないその人たちを「犯罪者」として裁き、社会との関係を断ち、他者との関係を断ち、孤立を基本とする環境に置いて更生させようとする。そんな建前上のセレモニーを終わらせるための手ぐかりを彼らから学び、社会実装するための本。

ケアする心

キム・ユダム＝著

小山内園子＝訳

発行：白水社

定価2420円（本体2200円＋税10%）



韓国発の注目の短編集。育児や介護など、家族のケアに時間と労力を捧げる人々が、ケアされない日常の中で静かに奮闘する心を描く。さまざまなケアに追われ、多くの葛藤を抱える人こそ読まれるべき作品群となっている。